

智頭急行株式会社第35回定時株主総会の内容について

智頭急行株式会社第35回定時株主総会は、2021年6月11日に智頭急行株式会社（鳥取県八頭郡智頭町智頭2052-1）において開催いたしました。

なお、株主様には新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、当日の来場をお控えいただき、会社法（平成17年法律第86号）第298条及び第311条の規定に基づく書面による議決権の事前行使をお願いしておりましたので、来場された株主様はお一人もおられませんでしたが、事前に提出していただいた議決権行使書及び委任状により適法に成立しました。

その主な内容を次のとおりお知らせいたします。

記

第35回定時株主総会

- ・第35期事業報告について
事業報告書の内容を報告しました。
- ・第35期貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びに損失処理計算書案の承認について
原案どおり承認されました。
- ・取締役の任期満了に伴う取締役の選任について
下記の15名が選任されました。
- ・役員退職慰労金の支給について
当社の一定の基準に従い役員退職慰労金を支給すること等について、原案どおり承認されました。
- ・2020年度智頭線の輸送人員について
特急列車及び普通列車の輸送人員を報告しました。

[取締役]

	氏名	備考		氏名	備考
再任	平井 伸治	(鳥取県知事)	再任	庵途 典章	(佐用町長)
〃	荒木 一聡	(兵庫県副知事)	〃	遠山 寛	(上郡町長)
〃	菊池 善信	(岡山県副知事)	新任	石丸 文男	(株山陰合同銀行代表取締役会長)
〃	深澤 義彦	(鳥取市長)	〃	前根 伸彦	(株鳥取銀行常務執行役員)
〃	吉田 英人	(八頭町長)	再任	丸山 明則	(神姫バス(株)代表取締役専務取締役)
〃	金兒 英夫	(智頭町長)	〃	城平 守朗	智頭急行(株)
〃	青木 秀樹	(西粟倉村長)	新任	稲田 雅也	智頭急行(株)
〃	萩原 誠司	(美作市長)			

【参考】書面による議決権の行使関係の規定等 会社法

(株主総会の招集の決定)

第298条 取締役（前条第四項の規定により株主が株主総会を招集する場合にあっては、当該株主。次項本文及び次条から第三百二条までにおいて同じ。）は、株主総会を招集する場合には、次に掲げる事項を定めなければならない。

一 株主総会の日時及び場所

二 株主総会の目的である事項があるときは、当該事項

三 株主総会に出席しない株主が書面によって議決権を行使することができることとするときは、その旨

4 取締役会設置会社においては、前条第四項の規定により株主が株主総会を招集するときを除き、第一項各号に掲げる事項の決定は、取締役会の決議によらなければならない。

(書面による議決権の行使)

第311条 書面による議決権の行使は、議決権行使書面に必要な事項を記載し、法務省令で定める時まで当該記載をした議決権行使書面を株式会社提出して行う。

2 前項の規定により書面によって行使した議決権の数は、出席した株主の議決権の数に算入する。

会社法施行規則

(書面による議決権行使の期限)

第69条 法第三百十一条第一項に規定する法務省令で定める時は、株主総会の日時の直前の営業時間の終了時（第六十三条第三号ロに掲げる事項についての定めがある場合にあっては、同号ロの特定の時）とする。

(参考)

第35期(2020年度)の決算状況等について

1 決算の状況

ア. 営業収益 1,907,690,107円

旅客運輸収入及び運輸雑収入がいずれも前期より減となり、営業収益が1,908百万円(69.0%)と前期より855百万円の大幅な減となりました。

(ア) 旅客運輸収入 507,517,564円

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、旅客運輸収入が508百万円(39.5%)と前期より779百万円の大幅な減となりました。

(イ) 運輸雑収入 1,400,172,543円

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う増結車両数の減等により、受取車両使用料が減少し、1,400百万円(94.8%)と前期より76百万円の減となりました。

イ. 営業費用 2,302,058,687円

新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な収入減が見込まれたことから、安全な運行を確保するための必須の工事及び先送りが不可避な老朽化対策工事以外の工事の先送り等による修繕費の削減をはじめ費用全体の見直しを最大限行なったことなどにより、営業費用全体では、2,302百万円(90.4%)と前期より245百万円の減となりました。

ウ. 営業損益 △394,368,580円、経常損益 △356,124,861円

営業損益は、△394百万円(△182.5%)と前期より611百万円の減、経常損益は、△356百万円(△162.9%)と前期より575百万円の減となり、大幅な減収減益で1997年度以来23年度ぶりの赤字となりました。

(単位：円、%)

区 分		第 35 期(2020 年度)	第 34 期(2019 年度)
収入	営業収益	1,907,690,107(69.0)	2,763,021,265
	旅客運輸収入	507,517,564(39.5)	1,286,296,696
	運輸雑収入	1,400,172,543(94.8)	1,476,724,569
費用	営業費用	2,302,058,687(90.4)	2,546,883,447
営業損益		△394,368,580(△182.5)	216,137,818
営業外収益		55,091,076(379.0)	14,534,009
営業外費用		16,788,016(139.6)	12,026,128
経常損益		△356,124,861(△162.9)	218,645,699
営業係数		120.7	92.2
設備投資		65,824,567	332,865,520

(注)詳細は、本日14時30分頃に弊社ホームページに掲載予定の「第35期業務及び財務に関する資料」をご覧ください。

URL : http://www.chizukyu.co.jp/chizukyu/company/kigyo_jyouho/

2 2020年度智頭線の輸送人員について

輸送人員全体では514,963人(前年度比45.9%)と607,992人の減となりました。
列車別輸送人員 (単位：人、%)

区 分		第 1 四半 期	第 2 四半 期	第 3 四半 期	第 4 四半 期	累計
スーパー はくと	人 員	24,703	53,517	84,244	56,201	218,665
	乗車率	7.8	16.1	25.8	17.6	16.9
	前年度比	16.6	32.4	53.0	44.4	36.5
スーパー いなば	人 員	12,317	23,416	32,209	24,718	92,660
	乗車率	10.0	18.6	26.3	20.3	18.8
	前年度比	19.3	34.0	48.3	49.0	37.1
特急列車 合計	人 員	37,020	76,933	116,453	80,919	311,325
	乗車率	8.4	16.8	25.9	18.3	17.4
	前年度比	17.4	32.9	51.6	45.7	36.7
普通列車	人 員	33,038	58,530	65,234	46,836	203,638
	前年度比	44.1	78.9	88.4	91.5	74.3
総 計	人 員	70,058	135,463	181,687	127,755	514,963
	前年度比	24.4	44.0	60.7	56.0	45.9

ア. 特急列車輸送人員〔上期（25.5%）、下期（49.1%）、通期（36.7%）〕

上期は、4月に新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発出されたことにより、輸送人員は大きく減少しました。5月には段階的に緊急事態宣言が解除されたこと等により、6月から徐々に回復基調となりましたが、8月に感染者数が再び増加傾向となったことに伴う移動自粛の影響等により、輸送人員が再び大きく減少しました。9月からはGo To トラベルキャンペーンの東京発着追加発表、イベントの入場制限緩和等により移動自粛ムードが緩和され、再び緩やかな回復基調が見受けられました。

下期は、9月に引き続いて11月にかけて緩やかな回復基調となりましたが、感染者数の増加に伴い11月下旬からGo To トラベルキャンペーンが段階的に停止され、更に1月には緊急事態宣言が順次発出された影響等により、2月にかけて輸送人員が減少基調となりました。3月には段階的に緊急事態宣言が解除されたこと等により、わずかに回復傾向が見受けられました。

このように輸送人員は大きな減少や回復基調を繰り返しながらも、年度間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったこと等により、年度累計では311,325人(前年度比36.7%)と前年度を537,426人下回り、大きく落ち込みました。運行期間が4カ月足らずだった1994年度を除くと、開業以来26年間で最も少ない輸送人員となりました。

(ア) スーパーはくと〔上期（24.9%）、下期（49.2%）、通期（36.5%）〕

新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったこと等により、年度累計で218,665人（前年度比36.5%）と前年度を380,325人下回り、大きく落ち込みました。

(イ) スーパーいなば〔上期（26.9%）、下期（48.6%）、通期（37.1%）〕

新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったこと等により、年度累計で92,660人（前年度比37.1%）と前年度を157,101人下回り、大きく落ち込みました。

イ. 普通列車輸送人員〔通期(74.3%)〕

4月から5月にかけては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い沿線の高等学校が臨時休校にされたこと、広く外出自粛が行われたこと等の影響等により、輸送人員は大きく減少しました。6月から高等学校の授業が再開され平日は通勤・通学定期利用を中心に回復してきたものの、土休日は感染者数増加に伴う旅行客の出控えが続いていること等の影響等により、年度累計で203,638人(前年度比74.3%)と前年度を70,566人下回り、大きく落ち込みました。定期、定期外については、いずれも前年度より減少し、年度累計で、定期は135,540人(前年度比83.1%)と前年度を27,600人下回り、定期外は68,098人(前年度比61.3%)と前年度を42,966人下回りました。

